

石橋思業

いしはし

小説家。慶應二年六月、一日武藏國生れ、昭和一年一

月二十八日没（公七十九）。本名助二郎。筆名（一）三子、一念思之

助、中坂思業外史、夢廬家主人、夢廬屋たどる、夢廬舎、夢廬舎主人、

市川思業次、思業外史、思業外史老爺、朱庵、櫻雨散史、石橋思業外

史、自芳亭、自芳亭主人、鉛筆將軍、雨の屋主人、雨之屋主人、雨廬

屋主人、雨香、雨香逸史、飯臺思業外史等。帝國大學文科大學中退。

明治十八年崖崎紅葉、山田美妙、丸岡九華等と視友社を結成。うち新

聞記者、雑誌編輯者など。

著書『學園花壇』（思業外史名、合著、明治二十七年一月一日春陽

堂）、『寧馨草』（同、明治二十七年九月十二日博文館『少年文學』）、

『籠の中の』（同、合著、紅葉山人編、明治二十九年九月十二日春陽

堂）、『筆と紙』（同、明治二十二年十二月四日博文館）、崖崎紅葉

著『千手萬堂日録』（同、校訂、明治四十一年十月）二十五日左久良書

房）等。